

教育目標:	○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○力を合わせる子 ○元気な子
目指す学校像:	○確かに学ぶ学校 ○安全・安心な学校 ○未来を創る学校 ○信頼される学校
目指す児童・生徒像:	○主体的に学び、自らの力を高め伸す子 ○自他を大切に、心豊かに他者と協働する子 ○心身ともに健康に生活する子
目指す教師像:	○学校の役割を十分に理解し、信頼される学校づくりに貢献する教職員 ○心身ともに健康な教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
学習指導 確かに学ぶ	◆基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 ◆主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 ◆カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、多様な人々と協働しながら課題解決を図る学習を充実させる。	○基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 ○個に応じた指導、互いに学び合い、高め合う指導、タブレット型PCの活用を推進・充実させる。 ○体験的・協働的な学習、探究的な学習を推進する。	・「主体的・対話的で深い学び」、「分りやすい授業」を推進し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。	4	4	4	4	○学習内容を明確にした計画的な授業、事後評価を生かした授業改善。 ○基礎的・基本的な知識や技能の定着。 ○課題を自ら設定して取り組むなど、発達段階に合わせた「探究的な学び」「自ら学ぶ習慣」が身に付くよう工夫。	・「主体的・対話的で深い学び」や、どのような内容が「基礎的・基本的な知識・技能」であるか、保護者は分りやすいのではない。補助資料を付けるなどして、回答しやすくする方法の一つではないか。 ・子供たちに学ぶ意欲を身に付けさせるためには、課題解決や協働的な学習を行うことはとても大切であり、引き続き取り組んでほしい。
			・タブレット型パソコンの活用、ICT機器等を効果的に活用した分りやすい教材の提示により、「分かれる・つながる授業」を展開する。外国語、算数習熟度別指導など個に応じた丁寧な指導を行う。	4	4	3	4	○ICT機器の活用や、外国語の専科授業、算数の習熟度別指導等を通じた、子供たちが「わかった」「できた」を実感できる授業改善。 ○タブレット端末における保護者との情報共有や、より良い利活用の推進。	・教員の伝え方一つで子供たちは意欲をもつ場合もあれば、反対に諦めてしまふこともある。子供たちへの話し方や伝え方を今後も大切にしてほしい。
			・「習得・探究・活用」「問題解決」の学習過程を取り入れた授業、生活科や総合的な学習の時間を中心とした人的・物的資源を生かした協働学習を行う。	4	4	3	4	○児童が自らすすんで考え、課題を解決していく場面や話し合ったり伝え合ったりする場面の計画的な設定。 ○児童が考える時間の確保や、話し合うことを大切にした、思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善。	
安全・安心な生活指導	◆規範意識の醸成と他者を大切にすることを言葉や態度(挨拶・礼儀)で表すことができるようにする。 ◆いじめや差別、体罰を絶対に許さないなど、全教育活動を通じた人権を尊重した教育活動を推進する。 ◆安全教育の推進に取り組む。 ◆教材・教具、校内環境の美化・整備を適切に行い、教育環境を安全に整える。	○基本的な生活習慣や集団生活をする上でのルールの徹底を図る。 ○自他の心身を大切にするための判断力・行動力を身に付けさせる。 ○いじめ防止・不登校対策の充実と徹底を図る。 ○保護者や地域、関係諸機関と連携した安全教育の取組を行う。	・「十のきまり」「10の約束」の指導の徹底を家庭と連携して行う。 ・挨拶や手先を大切にすることを身に付けさせる。	4	4	4	4	○「十のきまり」「10の約束」の指導を重視し、各学年の発達段階に合わせた指導の継続。 ○教職員も含めた学校全体で挨拶の励行、地域連携の充実。	・登下校時に挨拶をすることでほとんどの子供たちが挨拶を返してくれる。大人が挨拶をすることが子供たちの手本となり、真似をする。この良い習慣を続けてほしい。 ・児童のアンケートについて、「いいえ」と回答した心理や、その状況について理解し、取組をおこなっていくことが重要なのではないか。
			・組織的にいじめ防止に取り組む。毎月、笑顔チェックカードにより児童の様子を把握し、SOSを見逃さないよう細心の注意を払う。 ・「ふわふわ言葉」を推奨し、暴力や暴言を許さない。体罰防止に努める。	4	4	4	4	○児童一人一人の様子を丁寧に見ていくことの重点化。 ○児童と教職員のコミュニケーションを大切にした関係づくり。 ○SCによる5年生の全員面接をはじめとする相談体制の整備。 ○集団生活上に必要な態度やマナーの定着。	・安全教育を推進している学校であるからこそ、子供たちの心理的安全にも気を配り、一人一人の子供が安心して学校に通えるような取組を大切にしたい。
			・様々な場面において、「想像する」「行動する」の習慣化を図り、思いやる心や危険を予測し回避する力を養う。また、家庭・地域と連携した安全教育に取り組む。 ・学校環境を安全に整え、安全指導や避難訓練の充実を図る。	4	4	4	4	○実効性のある安全指導に向けた取組の充実。 ○危険予測、危険回避能力の育成の継続。 ○セーフティ教室など安全教育の充実。 ○保護者による安全点検の実施と結果の確認。 ○安全な環境整備に向けた取組の充実。 ○「子供の視点」を大事にした安全点検の確実な実施。	
未来を創る豊かな心 たくましい心	◆困難なことにも立ち向かい、様々な人と協働し、課題を解決していくことができるたくましい心と体を育成すること。 ◆自分のよさや可能性を伸ばし、生き方について考えを深めたり、自分の夢や希望を大切にしたりすることができるようキャリア教育を推進する。 ◆家庭との連携を図り、生涯にわたって運動に親しみ、健康な体を維持していくことができる態度を培う。	○特別支援教育や多様な人権教育の学習を充実させる。 ○キャリア教育の推進し、自分のよさ・生き方について考える機会を設けたり、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせる。 ○音楽・造形活動を通じ、豊かな情操を養う。 ○「体力の向上」「食」の大切さを理解し、健康な生活を送ることができるようにする。	・スクールカウンセラーや特別支援教室の巡回指導教員等と連携し、発達障害や多様性への理解を深めたり、道徳教育・人権教育の指導を充実させる。	4	4	3	3	○多様性を認め合い、偏見や差別をしない心の育成。 ○教職員の「報告・連絡・相談」の徹底。 ○特別支援教育への理解教育を充実させることによる思いやりの心の育成。	・児童アンケートの結果を見れば、肯定的な評価であるので、学校側の指導は、今後も変わらず継続してやってほしい。 ・外で遊ぶ児童が少なくなっているように思う。運動力の低下が気がかりである。子供たちの実態を掴んだり、けがの無いような活動をお願いしたい。
			・ゲストティーチャーによる授業や自分のよさや協働するよさを感じる授業を充実させ、キャリア教育を推進する。 ・音楽や発表など表現する機会を積極的に設けるとともに、学級活動、委員会活動を充実させ、児童の自主的な活動を推進する。	4	4	4	4	○特別活動や授業におけるキャリア教育の視点を重視した活動の設定。 ○児童の自己肯定感を向上するような計画的な実践。 ○行事や様々な活動の中で成功体験を重ねられるような指導の工夫 ○自己有用感の育成。	・体験的な学習や遊びの経験が広がるように工夫してほしい。 ・コロナ禍での学校運営は大変だと感じるが、感染対策を行いながら子供が少しでも伸び伸びと学校生活を送れるようにお願いしたい。
			・コーディネーショントレーニング拠点校としての活動や「楽しみながら運動に親しむ機会」の日常化に取り組む。また、元気チェックカードの活用や栄養士と連携した食育を充実させ、健康な心身を培っていくこととする意識を高める。	4	4	4	4	○児童が夢中になり、運動量が確保された体育授業の改善。 ○栄養士と連携した食育の充実と、「いのちをいただくこと」「食を大切にすること」の意識の育成。	
家庭・地域とともにある学校	◆保護者・地域に学校運営について分りやすく情報を発信する。 ◆教育活動の充実・改善のために、内部評価・外部評価を生かす。 ◆保護者や地域の願いを共有し、「開かれた学校づくり」に取り組む。 ◆家庭・地域と連携して教育活動を充実させる。	○児童の学校生活や取組の様子がよく分かるよう分りやすく情報を発信する。 ○学校運営協議会委員・保護者・教職員・児童を対象とした学校評価を実施し、PDCAサイクルによる改善を図る。 ○保護者・地域と協働し、「チーム十小」として、教育活動を充実させる。	・学校ホームページ、学校ブログでは、教育活動の様子を適宜発信する。学校だより、緊急メール等は、情報を分かりやすく伝える。	4	4	4	4	○学校ブログの計画的な更新と、教育活動の様子を具体的にかつ迅速に伝えるようになる工夫。 ○ICT機器を活用した、学校と保護者間の円滑な連絡方法の工夫。 ○分かり易く情報を発信するための学校ブログや学校だより、学年だよりの体裁改善。	・コロナのため色々な制約がある中、工夫して学校運営を行っていると感じる。 ・外部との連携や新しい取組など、常に工夫を続け、よい教育になるよう努力していると感じる。
			・学校公開や行事等は、社会の状況に合わせ適切な環境のもと実施する。また、各行事実施後のアンケートの結果を発信するとともに、次年度に生かすよう改善策を提示する。	4	4	4	4	○次年度以降も児童が表現することを楽にするような取組方法や指導方法の改善。 ○「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた、地域人材・保護者の積極的な活用と情報発信。	・更新したことがすぐに分かるようにする情報発信のツールは様々なものがあるので、検討してみてもどうか。 ・教育活動について、どのような取組をしているのかという情報は保護者にとって安心感につながるため、今後も丁寧な情報発信をお願いしたい。
			・教職員は、児童が安心して通学できるよう日常の連絡などを丁寧に、保護者とともに児童の成長を支える。 ・「学習ボランティア」として保護者や地域人材の教育活動への参画を進める。	4	4	3	4	○地域・保護者ボランティアの活用・充実と地域人材の教育活動への参画。 ○児童や保護者の不安や悩みに寄り添った、児童が安心して通学できるよう丁寧な指導。	・コロナ禍で縮小してしまっている地域での行事と連携していきたい。